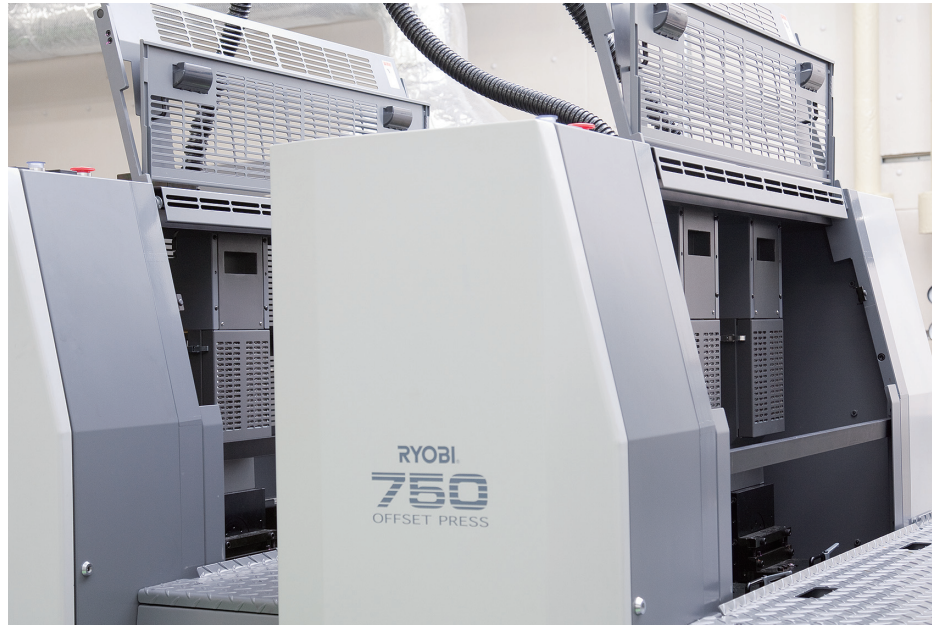


Success Story from KODAK

大ロット・バリアブル印刷への対応を目指してKodak Prosper S5 プリンティングヘッドを搭載した世界初のインラインUV印刷機を導入。

印刷業から販促支援事業へ
ビジネスを転換

長野県南部、中央アルプスと南アルプスに抱かれた伊那市に拠点を置く株式会社小松総合印刷は、地元密着型の印刷業からバリアブル印刷やDM印刷など One to One マーケティングに対応した販促支援事業へとビジネスの軸足を大きく転換してきた総合印刷会社である。昭和 23 年の創業以来、同社は百貨店やスーパーをはじめとする地元企業との取引を中心に堅実な印刷業を営んできた。しかし印刷業界の激しい価格競争は地方の町でも例外ではなかった。同社もまた、競合他社との差別化を図りながら新たな活路を見出してゆく必要性に迫られたのである。ターニングポイントとなったのが、平成 14 年に導入した UV 印刷対応の菊半裁判 6 色機だった。「地方の印刷会社が生き残るためには、価格競争から脱却して、お客様にアピールできる付加価値の提供が必要」と同社の代表取締役社長である小松 肇彦氏が導入を決断した。そこには海外視察などを通して、つねに新しい業界動向を探ってきた小松社長の先見性があった。同社ではこの新しい UV 6 色機を活用して、6 色広色域印刷をはじめとする付加価値の高い新商品を開発していった。そのなかに現在の発展を支える UV 圧着ハガキがあった。この UV 圧着ハガキは糊圧着のフォーム印刷しかなかった当時、画期的な新商品となった。また、こうした新商品を PR するため展示会にも積極的に出展。印刷会社や広告代理店に対



第5印刷ユニットに2台、第6印刷ユニットに1台の Prosper S5 プリントヘッドを内蔵

してダイレクトメールも大量に配布した。旧来の「ご用聞き営業」ではなく、展示会や DM、ホームページを通じて自社の魅力を広く PR することで、徐々にその存在が全国に知られるようになったのである。定番商品である圧着ハガキも開封率を高めるレスポンスツール付 DM、チケット内蔵 DM などバリエーションを拡大。さらには圧着くじや三角くじ、スクラッチといった新商品も次々と開発し、企画提案から製本加工、フルフィルメントまでのワンストップサービスを提供する企業へと成長してきたのである。

バリアブルDM印刷のニーズが急増し
Prosper S5 の導入を決断

UV 印刷機の導入から始まった同社の挑戦は、バリアブル DM 印刷を本格化することで販促支援ビジネスとしての色あいを濃くしていった。One to One マーケティングへの対応、そして ROI（投資収益率）の把握が容易なことから、同社の提案する圧着 DM が効果的な販促ツールとして高く評価されてきたのである。こうしたバリアブル DM 印刷では顧客データの取り扱いが必須だ。このため同社では平成 18 年に個人情報保護を目的としたプライバシーマークを取得。翌年には入退室管理などセキュリティ性を高めた新工場に移転し、顧客の信頼を獲得していった。

「リーマンショック以降、バリアブル印刷のニーズが急増しました。販促部門が ROI をシビアに意識するようになったためです。しかも宛名だけでなくナンバリングや可変バーコードなどで効果を測定し、レスポンスを高めようというニーズも増加しました」

こうした企業の意識変化が同社のビジネスにとって追い風となった。昨今では、流通業界の大手なら、100 万枚以上の DM もいくつもある。全国規模のチェーンであれば数百万枚、場合によっては 1 億枚クラスのバリアブル印刷もあるという。「すぐそこに大きな仕事がある」と実感した小松社長だが、従来のデジタルプリンタでは生産能力に余裕がない。大ロットのバリアブル印刷を短納期でこなすためには、新しい生産設備が必要と Kodak Prosper S5 プリンティングシステムに注目した。しかも Prosper S5 のプリントヘッドを UV 印刷機に搭載し、インラインで処理できないかと考えたのである。その理由について小松社長は次のように語っている。

「印刷と同時にバリアブルデータを印字してニス加工までワンパスで処理できれば、生産性は飛躍的に向上します。そのためには毎時 8,000 ～ 10,000 枚の高速印字が可能なプリンティングヘッドが必要ですが、それを可能にするシステムは市場にはコダックの Prosper S5 しかありませ



代表取締役社長 小松 肇彦氏



Prosper S5を3台搭載した世界初のインラインUV印刷機



バリエブル印字用のデジタルプリンタ



印刷・加工から封入・封緘、発送代行までワンストップサービスを提供

んでした」

Prosper S5はコダックの革新技术 Stream Inkjet テクノロジーを搭載したインクジェットブリントヘッドで、最高スピードは毎分最高 150m。この卓越したスピードと解像度 600dpi というすぐれた印字品質を小松社長が高く評価したのである。

Prosper S5を搭載した 世界初のインラインUV印刷機

小松社長のアイデアにもとづいて、コダックのインクジェットヘッドを搭載した印刷機をリョービ株式会社が開発に着手。約1年弱の開発期間を経て2010年12月、UVオフセット+インクジェット+UVニスをワンパスで処理する画期的なインライン印刷システムが同社に導入された。第1から第4印刷ユニットはプロセス4色、第5、6印刷ユニットにProsper S5を合計3台搭載し、その後にNIR乾燥ユニット、特色用の第8印刷ユニット、そしてUVコーターと続く9ユニット構成で全長は10mを超える。Prosper S5を3



大判圧着DMから圧着くじ、スクラッチなど幅広い商品をラインアップ

台搭載した理由について小松社長は次のように語っている。

「Prosper S5の1ヘッドあたりの印字幅は106mm(4.16インチ)なので、3台あれば菊半裁判のほぼ半分のエリアがカバーでき、どん天返しで用紙全面にバリエブル印字が可能になります。また各ヘッドの位置を自由に設定できるため、用紙全面で最大106mm×3列のバリエブル印字も可能になります」

この特長を活かして同社では大判圧着DMへの両面バリエブル印刷という新提案を行っている。この大判圧着DMは仕上がり寸法がA4サイズのN折圧着DMで、開封すると幅が620mmにもなる。宛名面を含めてA4・6ページに様々な情報が掲載できるため、DM戦略の幅を大きく広げることが可能だ。バリエブルデータの印字エリアも106mm×3列はもちろん、2台のヘッドでA4横幅210mmをカバーし、残りの1台で宛名を印字するといった融通性の高い利用方法も可能になる。圧着DMの表裏両面にバリエブル情報を掲載するというアイデアも画期的だった。こうした大判DMや圧着面へのバリエブル印字は既存のデジタルプリンタでは不可能だ。Prosper S5の導入によって同社の営業戦略もまた、大きく拡大したと云えるだろう。

同社の未来を支える Prosper S5プリンティングシステム

導入から4カ月が経って、すでにProsper S5の本格的な運用もスタートしている。小松社長が期待していた大ロット・バリエブル印刷の仕事も納期に余裕を持って対応できるようになった。数百万枚の可変圧着くじは36面付けで印刷し、圧倒的なスピードで処理できたという。Prosper

S5の圧倒的なスピードと高い品質は期待通りだったが、その一方で課題も浮かび上がってきた。個別ジョブごとにバリエブルデータをハンドリングする仕組みを作らなくてはならないなど、面付け印刷ならではの難しさだ。しかしこうした課題も、デジタルプリンタで蓄積してきた可変印刷のノウハウを元に仕事をこなしながら、新しい経験を積んでゆけば、徐々に解消するだろう。

「バリエブルの仕事は現在、小ロットと超大ロットに分かれてその中間がほとんどありません。今後、中小規模の流通企業がOne to Oneマーケティングの重要性に気付けば、こうした中間層の仕事も増えてくと確信しています。Prosper S5は大ロットだけでなく、中ロットの仕事でも当社の確かな戦力になると確信しています」

こう語る小松社長の目にはバリエブル印刷に特化した小松総合印刷の確かな未来が映っているに違いない。



株式会社小松総合印刷

代表取締役社長：小松 肇彦

従業員数：30名

本社所在地：〒396-0029 長野県伊那市横山10955 番地1

TEL：0265-72-3129 (大代表) / FAX：0265-73-6625

<http://www.ko-ma-tsu.co.jp/>

コダック 株式会社 グラフィック コミュニケーション事業部

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-9 TEL.03-5577-1200

大阪：06-6105-9670 名古屋：052-746-1290 福岡：092-707-0180

仙台：022-290-2070 札幌：011-590-5070 金沢：076-200-7159

製品のお問い合わせ先 JP-GCG-products@kodak.com

<http://graphics.kodak.com>

Kodak

It's time for you **AND** Kodak